

トマス・フリードマン著「グリーン革命 - 温暖化、フラット化、人口過密化する世界 - 」(上)

日本経済新聞社 2009年3月19日刊を読む

1. 鳥も飛ばない場所では、人々が交わらず、思想がひらめかず、友情が結ばれず、固定観念が打破されず、<sup>コラボレーション</sup>共同作業が行われず、信頼が築かれず、自由の鐘は鳴らない。アメリカがそういう場所になってほしくないと、私たちは思っている。また、アメリカをそういう場所にしてはならない。アメリカ防衛態勢で身をかがめていたら、わが国をいまも流れている、理想主義、イノベーション、ボランティア精神、人類愛という大河から、ふんだんに恵みを受けることができなくなる。アメリカは、希望の灯火となり、日々の重要課題に対応して世界をリードできる国という重要なつとめを長らく果たしてきたが、それもできなくなる。私たちにはそのアメリカが必要だし——それがアメリカのあるべき姿なのだ——現在、これまで以上に、それが求められている。

その理由を語るために本書がある。

2. 核心をなす議論は、いたって明快だ。アメリカは一つの難問を抱えているし、世界も一つの難問を抱えている。アメリカにとっての難問は、近ごろ、道を見失っていることだ——それは 9・11 のせいでもあり、私たちがこの 30 年ほど積み重ねてきた悪習のせいでもある。こうした悪習が、大きな課題に取り組もうとする私たちの社会の能力とやる気を殺いでしまった。

3. 世界もまた難問を抱えている。世界は暖かくなり、平らになり、人口過密になってきた。地球温暖化と、世界各国でのミドルクラスの急激な勃興と、急速な人口増加が一気に重なり、私たちの地球はきわめて不安定になっている。温暖化とフラット化と人口過密化が重なったことで、具体的には、エネルギー供給が逼迫し、植物と動物の絶滅が加速し、産油国の独裁体制が強化され、天候異変が加速している。こういった入り組んだグローバルな流れにどう取り組むかが、21 世紀の地球におけるクオリティ・オブ・ライフを左右することになる。

4. アメリカがこの大きな難問を解決する最善の方策は——アメリカが“好調”を回復する最善の方策でもあるが——リードする立場で世界の大きな難問を解決することだ。温暖化、フラット化、人口過密化する世界で、ツール、システム、エネルギー源、倫理を創り出し、世界をもっとクリーンにして、持続可能なやり方で成長させるという仕事は、私たちの生涯で最大のやりがいのある課題になる。

5. しかしながら、この課題は、アメリカにとってまたとない好機でもある。これに取り組むことによって、アメリカはよみがえり、外国との交わりを深め、未来のために自己変革を遂げるだろう。アメリカはつねに、イノベーションとインスピレーション、国家の富と威信の確保、莫大な利益の追求と重大な問題への取り組みを組み合わせるとき、もっとも力を発揮し、もっとも影響力を及ぼしてきた。片方をやるだけでは、それぞれの部分を足した合計にも満たない。両方をやるからこそ、

部分の合計よりもはるかに大きな結果が出るのだ。

- 6 . しかし、これはただの好機ではない。試練でもある。私たちにリードする意志と能力があるかどうかを試されることになる。アメリカが大好きでも大嫌いでも、アメリカのパワーを信じていてもいなくても、温暖化とフラット化と人口過密化の収束は、気が遠くなるような難題を生み出し、アメリカが乗り出さないかぎり、実質的な解決策など思いもよらないような状態になっている。「われわれは敗者になるか英雄になるかだ——その中間の何者かになるような余裕はない」エコテック・インターナショナル CEO で、アメリカきっての環境問題の権威のロブ・ワトソンは、そう述べている。
- 7 . そう。リーダーシップ、イノベーション、コラボレーションを、必要とされるレベルまで高めないと、だれもが敗北を喫する——それも大敗を。これまでとおなじことを惰性でつづけるという途は、もはや選べない。全く新しい手法が必要なのだ。テキサスには、こんないいまわしがある。「いまやっていることが、これまでやってきたこととおなじなら、これまでに得たものしか得られない」
- 8 . 私が提案する新プロジェクトのしごく簡単明瞭な名称は、“<sup>コード</sup>暗号名グリーン”だ。1950年代と1960年代のアメリカにとって、“レッド”は、もっとも重視されていた共産主義の脅威のシンボルだった。それを旗印に、国民を総動員し、軍備を増強し、工業地帯、高速道路、鉄道、港湾、空港、教育施設を充実させ、世界を統率して自由を護るのに必要な科学力を向上させた。それとおなじように、現在のアメリカは、“グリーン”を必要としている。

P12 ~ 14

#### [コメント]

世界的ジャーナリスト、トマス・フリードマン氏による World is Flat(フラット化する社会)の続編。毎週、週末に1本、ヘラルド・トリビューンでフリードマン氏のコラムを読むことができる読者は幸せだ。世界で何が起きているのかを、フリードマン氏の目を通して知ることができるからだ。本書も、毎週書き続けているコラムの集大成の1つ。大いに勉強したい。

- 2010年7月17日 林 明夫記 -